

町医者だより

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器内科

令和04年10月号

小児科医による呼吸器ウイルス感染症の的中率

コロナ7波が沈静化してきました。今でもよく耳にするのが中学生や12歳以下のお子さんの感染例です。昨年夏くらいから小児のコロナ感染例が目立つようになって今回は保育園や幼稚園を中心に子供さんが感染し、そして周囲の大人(職員や家族)へ感染が広がる事例が多く見られたのはご存じのとおりです。当院に通院されているお子さんをお持ちの患者さんに聞くと不思議に思うのは小児科医の検査に対する姿勢の違いです。今回は、自信をもって間違えている小児科医の呼吸器ウイルス疾患の診断の的中率を見ていきます。

小児感染免疫雑誌の論文

もっとあると思いますが、なかなか論文がヒットしません。今回紹介する論文はコロナ前の2019年には発表されたものです。千葉大小児科の先生が書かれた論文ですが、小児科医が予想した通りの結果(陽性か陰性か)になるのかをアデノウイルス感染、インフルエンザ感染、A群溶連菌感染症、肺炎マイコプラズマ感染、RSウイルス感染、ヒトメタニューモウイルス感染で調べています。小児科医の判断と検査キットによる結果の一致率を見たものです。結果をみると先の呼吸器ウイルス感染症で、小児科医が陽性ないし陰性と判断し検査結果と一致した割合を見る「臨床予測的中率」が平均74%だったようです。我々小児科医は大したものである、というのがこの論文の主旨のようですが、ちょっと待ってください。大事なのは、検査なしで〇〇感染症です、と言い切っておられる小児科先生が正しいかどうかです。それが「陽性予測的中率」です。この論文のそれを見ると、インフルエンザ75%、アデノウイルス54%、A群溶連菌44%、肺炎マイコプラズマ56%、RSウイルス56%、ヒトメタニューモウイルス29%です。インフルエンザはコロナ前ならば、はっきりした流行期があるし患者数も多いので陽性予測的中率は高めです。しかしながらそのほかのウイルス感染症は的中率50%台です。当たるも八卦、当たらぬも八卦の状況です。ヒトメタニューモウイルスに関しては29%と壊滅的です。検査なしで小児科医がおっしゃっている診断名を信じられますか? ウイルス感染症ではないですが、結構ポピュラーな溶連菌感染症ですら50%未満でびっくりです。ましてコロナ感染症がまだあって、この論文の調査期間の2016年から2017年と現在は大きく異なります。コロナの検査すらしない、さらにはコロナ以外のウイルス感染症の検査もしないで診断名を口にする小児科医って何なんでしょう。

どう対処するか

この冬、BA5によるコロナ第8波が来ると予想されています。小児科医の対応に一貫性がなければ、それをあてにする必要はありません。コロナ感染症に関しては臨床検査用の抗原検査キットを自前で購入することができます。家族の感染の可能性を把握するために自宅でチェックすることです。コロナの抗原検査は発症後すぐではなく、2日、3日目の方が陽性になるか多いようです。